よる座談会

修、ボランティア、備品、イベント、保育」等の役割を分担し、毎週の班長会議、月１回の全体ミーティングを行い、市民館担当者も出席して運営上の諸問題について討議したりします。また年２回程度（夏と暮）クラス全員での「イベント」を行い、相互に忌憚（きたん）のない交流を楽しんでいます。もちろんボランティアも積極的に参加します。ちなみに今夏のイベントでは、男性軍（６名）は“ハンドベル”演奏？を披露しました。

学習者の中には、お子さん連れもいるため、保育ボランティアが学習の間面倒を見ています。

学習者は、７カ国にわたり、私のクラス（Ｓ＝初級者）では、インド、中国、フィリピン、ベトナムからの方です。ボランティアは４名で、クラス進行は毎週交替制で担当していますが、当日進行担当以外のボランティアは、アシストします。Ｓクラスでは、一応「助詞のれんしゅう」をテキストとして利用していますが自作の資料も活用しています。

五十嵐　卒市民館、木曜夜の部（１９：００～２０：３０）では、３３名を３つのクラスに分けて、ボランティア１６名が対応しています。学習者一人ひとりの希望に応じたいので、人数が足りないのが現状です。現在、１０名のボランティア希望者が研修中で、１０月から配置される予定になっています。

五十嵐さん

夜間ということで、時間が足りないことも悩みです。

増渕　中原市民館、火曜夜の部（１８：３０～２０：３０）では、終了後ボランティア同士のミーティングを行い、意志の疎通を図ったり、問題点を解決したりします。

クラスを３つのグループに分けて、習得できたら上のクラスに上がるようにしています。

昼間働いている人が多いし、そんな中で火曜の夜だけは時間をつくって参加しようとして来ている人が多いのです。国でいうと、中国人が多いですね。アメリカの人が少し減っています。

田口　私は中原市民館で昼間担当しています。新旧２５名で構成していますので、内部間の伝達、学習内容の継承等が難しいところです。学習者には、上級者が多く、中級者が少ないというのが現状です。上級には、台湾、中国、韓国など漢字圏を中心に、継続して来られる方が多く、新鮮、興味のある事がらを話しています。いこいの場でもあるようです。入門者は３か月から６か月で帰国してし まう短期の人たちが多いです。以前にくらべて中級者が減っているのが問題点でしょうか……。理由としては、子育ても一段落し、会話も少しできるようになったので、日本語教室に通うならパートに出ようといった人たちが、やめてしまうのです。

司会　活動していくうえでの問題点や悩み等をお聞かせ願います。

五十嵐　以前はイランやインドネシアからの人に労働法上の問題等の相談を受けたこともありますが、私たちにはどうすることもできないということです。現在は、日本語学級においては、そういった事はありませんが、日本語学級に来ることができるという事は恵まれているのかもしれません。

田口　本当に必要としている立場の外国人の方には、なかなか情報が届かないという気がします。日本に７年もいるのに日本語学級があることを知らなかったという方もいました。それはなぜかというと、オーバーステイだったということも……。

増渕　アピールのしかたもあると思います。私は自営業ですので、店先にパンフレットを置いたりしていますが、日本語だけだと、なかなか興味を持ってもらえないようです。

五十嵐　行政のお知らせ等もわかりにくいです。ふりがながふってあるからと担当者は言うんですが、「読める」ということと意味がわかるということは違いますからね。

苗加　気軽にたずねられる場所が少ないように感じられるんです。もっと気軽に立ち寄れる場所が必要だと感じます。例えば、外国の方が電話をかけるというのはすごく勇気がいると思うんです。私が電話を受けた時、すごく緊張していると感じるので、私たちの学級では